



仙台管区气象台4月2日発表の東北地方1ヶ月予報によると、向こう1か月の平均気温は低い確率が50%と予想されており、今後、生育が進むとともに凍霜害の危険性が高くなりますので、気象情報に注意し防霜対策など管理の徹底を図りましょう。

1 気象概況

3月5～6半旬の平均気温は、5半旬が5.6℃で平年より0.3℃高く、6半旬が3.3℃で平年より3.3℃低く経過しました。この期間の降水量は27.6mmで平年の81%でした。

表1 半旬別気象表 (果樹研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
3	1	4.9	3.3	+1.6	9.9	7.9	+2.0	0.5	-1.1	+1.7	36.0	7.6	473.7
	2	3.3	3.3	+0.0	6.5	8.1	-1.6	0.6	-1.1	+1.7	21.0	14.1	148.9
	3	6.1	4.4	+1.7	11.9	9.6	+2.3	-0.7	-0.4	-0.3	8.4	11.1	75.7
	4	7.3	4.9	+2.4	14.1	10.0	+4.1	1.8	0.0	+1.8	7.8	13.2	59.1
	5	5.6	5.3	+0.3	9.8	10.4	-0.6	1.1	0.7	+0.4	25.8	17.1	150.9
	6	3.3	6.6	-3.3	8.9	12.1	-3.2	-2.1	1.3	-3.3	1.8	17.1	10.5
平均・合計		5.0	4.7	+0.3	10.1	9.8	+0.4	0.1	-0.1	+0.2	100.8	80.2	125.7

2 果樹研究所における生育状況

- (1) モモの発芽は、「あかつき」が3月23日で平年より4日早く、「ゆうぞら」が3月24日で平年より5日早く確認しました。
- (2) ナシの発芽は、「幸水」「豊水」ともに近日中に発芽する見込みです。
- (3) リンゴの発芽は、「つがる」が3月26日で平年より2日早く、「ふじ」は3月26日で平年より4日早く確認しました。

表2 発育状況 (農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	3月23日	3月27日	3月20日	—	—	—
	ゆうぞら	3月24日	3月29日	3月21日	—	—	—
ナシ	幸水	未	4月5日	4月2日	未	4月17日	4月12日
	豊水	未	4月1日	3月31日	未	4月12日	4月10日
リンゴ	つがる	3月26日	3月28日	3月23日	未	4月11日	4月10日
	ふじ	3月26日	3月30日	3月24日	未	4月11日	4月7日

3 県内産地における生育状況（4月1日現在）

(1) リンゴ

「ふじ」の発芽は、伊達市で平年より3日早く確認されましたが、白河市や会津坂下町、下郷町では確認されていません。

(2) ナシ

「幸水」の発芽は、県内各産地ともに確認されていません。

(3) モモ

「あかつき」の発芽は、桑折町と須賀川市で平年より6～7日早く確認されましたが、会津若松市では平年より3日遅れました。

4 開花予測

今後の気温が平年並に経過した場合、各樹種の開花始めは、モモ「あかつき」が4月15日頃で平年より1日早く、リンゴ「ふじ」が4月27日頃で平年並と予測されています。

なお、開花期は直前の気温に左右されやすいので、今後の気象経過に注意が必要です。

表3 開花予測日（4月1日現在）

（農業総合センター果樹研究所）

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
モモ	あかつき	4月9日	4月16日	4月15日	4月13日	4月18日
リンゴ	ふじ	4月22日	4月27日	4月27日	4月23日	5月2日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1976～2005年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成22年4月2日発表)要約

向こう1か月の天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。また、週別の気温は1週目（4月3日～4月9日）は平年より低い確率が60%、2週目（4月10日～4月16日）は平年並または低い確率がともに40%、3～4週目（4月17日～4月30日）は平年並の確率が40%となっています。

5 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底してください。

事前の対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、下草は低く刈り込み（地温の上昇を図るため）、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保（乾燥条件は気温の低下が著しいため）してください。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉の徹底により結実確保を図りましょう。

果樹の凍霜害対策のための温度指標

果樹の凍霜害対策のための生育ステージ別温度指標を、農業総合センター果樹研究所ホームページに掲載していますので、参照してください。

アドレス：<http://www.pref.fukushima.jp/kajyu-shiken/homepage.htm> で、メニューの技術資料をクリックしてください。

..... お知らせ

県では、平成22年3月24日付けで「作物別凍霜害等気象災害防止対策」を発表しています。また、県内の果樹産地における主要果樹の生育ステージとその安全限界温度等について農業総合センターホームページに掲載していますので、技術対策の参考にしてください。

アドレス：<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>

(2) 結実確保対策

開花期は直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の動向に注意し、訪花昆虫の導入、共同開やく所の開設、人工受粉のための労力確保など計画的に実施しましょう。

6 病虫害防除上の留意点

発芽は平年よりやや早い～平年並と見込まれ、開花もほぼ同様の傾向と予想されます。開花前に使用する防除薬剤では、散布適期を逃すと薬害発生の恐れのある薬剤もあるので、適期防除に努めてください。

(1) 病 害

ア リンゴ腐らん病

近年、腐らん病の発生が拡大しています。伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発生部位は見つけ次第確実に除去し、殺菌塗布剤を塗布しましょう。また、せん除した罹病部位は伝染源になるので、園内に放置しないようにしましょう。なお、発生が認められる園では、展葉初期の薬剤防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病（モモ、ネクタリン）

前年秋期の新梢葉での発生は平年並となっています。越冬枝病斑からの感染を防止するため、開花直前の薬剤防除を徹底しましょう。なお、春型枝病斑は開花後頃から発生しますが、疑わしいと思われる枝枯れは見つけ次第せん除してください。

ウ ナシ黒星病

近年、黒星病の発生が多い傾向があります。本病は前年の被害落葉や罹病芽（鱗片）が伝染源になり、開花前から胞子を飛散しますので、初期感染を防止するために発芽1週間後の薬剤防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は4月23日頃と予測され、防除適期は4月6半旬～5月1半旬と推定されます。なお、今後の気象経過により防除適期も変動するため、落花10日後を目安に薬剤防除を実施しましょう。

イ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃と予想されます。越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉あたり雌成虫1頭以上）に達したら薬剤防除を実施しましょう。

ウ リンゴモンハマキ (モモ・ナシ)

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は5月22日頃と予測されます。昨年、発生が多かったほ場では、越冬世代の密度低下に努めましょう。本種は、枯れ葉を枝等に貼り付けた中にマユを作り若齢幼虫態で越冬するので(図1・図2)、摘らい作業などと平行して越冬マユの除去を行きましょう。なお、越冬量の多いモモほ場では、開花10日前頃に必ず薬剤防除を実施しましょう。



図1 リンゴコカクモンハマキ越冬場所
(枝に貼り付いた枯葉)



図2 リンゴコカクモンハマキ越冬虫

表4 主要害虫における防除時期の推定 (果樹研究所：平成22年3月31日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ	リンゴハダニ	リンゴモンハマキ
	越冬世代 誘殺盛期	越冬卵 ふ化盛期	越冬世代 誘殺盛期
2℃高い	4 / 18	4 / 19	5 / 13
平年並み	4 / 23	4 / 25	5 / 22
2℃低い	4 / 29	5 / 1	6 / 2

注) 起算日：3月1日。